

歯科と感染症

特別企画

「感染症対策は「足し算」 スタッフ一丸となって立ち向かおう」



東京都杉並区 さくら歯科
院長
吉村 誠 先生

「コロナ禍による異変を感じたのは、いつ頃からでしたか。」

今年の2月下旬、日本政府から小中学校に対する臨時休校要請が出された頃です。途端にメインテナンス予約のキャンセルが増えました。最初はお子様の親御さんから、続いて高齢者の方からもキャンセルが相次ぎました。また、基礎疾患があったり、不安を感じたりしている患者様に対しては、こちらから予約の延期をご提案することもありました。

患者数の変化は、やはり大きかったのでしょうか。

減少のピークは緊急事態宣言[※]真つただ中の4月下旬で、前年度比で50%を割りました。持続化給付金の申請もやむを得ない状況でした。緊急事態宣言が解除された5月下旬以降から少しずつ増え、6月には例年並みに戻りました。コロナ禍以前から推進してきた診療と、感染症対策を徹底する姿勢が、患者様に伝わったのかもしれない。

※東京都の緊急事態宣言期間は、4月7日～5月25日。

「医院で行った感染症対策を、具体的に紹介ください。」

患者様はもちろん、スタッフにも安心・安全を提供したいと思い、人同士の接触を防ぐ7つの「人的対策」と、院内の清潔を保つ6つの「院内整備」、以上の観点から感染症対策を徹底しました。換気は夏場も徹底していて、スタッフの体調が懸念されたので、ネッククーラーを1人1台行きたるよう導入しました。感染症対策は、重ねれば重ねるほど効果が高まる、「足し算」だと思います。有効な対策に「極集中」するのではなく、「思いつく限り徹底する」ことが大切ではないでしょうか。

院内整備

- ① 診療中のラバーダム、口腔外パキュームの使用
- ② 玄関、待合室を一日数回清拭、消毒
- ③ 受付カウンターにシールド設置
- ④ 待合室の雑誌、子ども用おもちゃの撤去
- ⑤ 光触媒を用いた室内コートイング
- ⑥ 院内の窓を全て開放して常時換気、空気清浄機の追加

人的対策

- ① 患者様とスタッフの、洗口割でのうがい、手洗い(診療室入室前後)、体温測定
- ② 昼食中のスタッフ間の会話禁止
- ③ 患者様のマスク着用、スタッフのフェイスシールド、アイシールド、サージカルガウンの着用
- ④ 体調不良者に対する来院自粛、予約変更の提案
- ⑤ 「早めの来院」の自粛要請
- ⑥ 待合室の長椅子撤去、一人がけの椅子に差し替え
- ⑦ トイレの使用方法的な注意喚起(消毒スプレーをし、ふたを閉めてから流す)

「コロナ禍の中、不安を抱えながら来院する患者様には、どのような対応を心掛けましたか。」

できる限り最新で正しい知識をお伝えすることが、患者様の不安解消につながると思います。「歯科医院は感染リスクが高い」という報道もありましたが、実際のところ、コロナ禍にかわりなく滅菌を徹底してきた歯科医院が、クラスターになる確率は低いと思います。そういった誤解をとくためには、私たちが診療の中で繰り返しお話をすることが大切です。当院ではオリジナルのパンフレットやポスターを作成し、丁寧な説明を徹底しました。

「全国の歯科医院の皆様へ、メッセージをお願いします。」

在宅ワークが浸透したことで、最近はビジネスマンの方に来院いただく機会が増えました。新型コロナウイルスがもたらした影響はあまりにも大きいです。口腔内を清潔にする、という歯科の役割に注目が集まっていることは間違いありません。引き続き、診療方針を明確に、スタッフ一丸となって取り組めば、必ず明るい未来はやってくると思います。一緒にがんばりましょう。



院内に掲示した、感染症予防に関するポスター